

まちづくりミーティング要旨

1. 団体等の名称 中部学院大学教育学部・経営学部学生
2. 日 時 令和元年 12 月 18 日（水） 16 時 30 分～18 時 00 分
3. 場 所 市役所本庁舎 3 階特別会議室
4. 出 席 者 <参加団体>6 名 <市> 市長
5. テ ー マ ①インクルーシブ教育について
②市内保育所における障がい者児童受け入れ体制について
③学びの森と市民公園一帯の整備計画について
④新愛岐大橋開通をにらんだまちづくりの推進について
⑤その他：各務原にんじんチップス&ポテトの小売店販売

テーマ①：インクルーシブ教育について

【参加者】福祉の里に伺ったことがあるのですが、施設が山の中に立地していると感じました。その場所を選んだ理由があれば教えていただきたいです。

【市長】私が市長就任前に建設されているので詳しい事情はわかりかねますが、自然が豊かということと、交通量が少なかったので交通事故への心配が少ないなどの理由があるのではないかと思います。

【参加者】養護施設などが山の中にあると交通の面で大変なことがあると思います。市街地の近くであれば、そこに通う子どもたちも人と関わる機会が増えると思います。

【市長】市では小中高一貫の特別支援学校の設立を検討しています。立地に関して、保護者の方の送迎の負担軽減のために交通の便が良いところや、近隣の小中学校との交流を図りやすいところなどを考慮しながらこれから土地を選別していきます。

テーマ②：市内保育所における障がい者児童受け入れ体制について

【参加者】保育所では障がいを持つ子どもへどのように対応しているのか教えていただきたいです。

【市長】例えば、吸引など看護師が必要な場合は、保育所に看護師を配置しています。

テーマ③：学びの森と市民公園一帯の整備計画について

【参加者】学びの森の横にある学びの森プロムナードのイチョウの木が原因で、車や歩行者にとって見えにくい場所があります。何度も危ないと感じたことがあるので対処していただきたいです。

【市長】カーブミラー設置という対処法もありますが、まずは一度現場を確認し、こういった対策ができるか検討させていただきます。

【参加者】学びの森には遊具がないので、設置することでより人が集まって賑やかになると思います。遊具以外にも仮設ステージを設置しイベントを実施すれば盛り上がると思います。

【市長】学びの森は自然を大切にしながらのびのびと遊んでいただくといったコンセプトの公園となっているため、今後の遊具設置予定はございません。一方で市民公園は広く世代を超えてというコンセプトであり、今後地域の方々にワークショップ等実施予定なので、人が集まる公園のアイデアを賜りながら整備計画を作っていきたいと思います。

公園は民間の方や中部学院大学さん、小中学校など多くの方々に使用していただくことで魅力の創出ができると思います。マーケット日和の際には、中部学院大学さんに学びの森のすり鉢状の地形をうまく活用し、段ボールの滑り台を設置した遊び広場を開催していただいておりますので、仮設ステージに関してましても中部学院大学さんでぜひ企画していただきたいと思います。

テーマ④：新愛岐大橋開通をにらんだまちづくりの推進について

【参加者】私が住んでいるまちに建設予定の橋があるのですが、いつ頃完成するのか教えていただきたいです。

【市長】（仮称）新愛岐大橋の建設工事は岐阜県と愛知県が行っています。岐阜県側、愛知県側どちらも順次進んでおりますので、今しばらくお待ちください。

テーマ⑤：その他：各務原にんじんチップス&ポテトの小売店販売

【参加者】カルビーと各務原市がコラボレーションして作ったにんじんチップスが全国展開されるかどうか教えていただきたいです。

【市長】このにんじんチップスは、5年前に私が実際にカルビー本社に伺い商品化をお願いして実現したものです。現在はふるさと納税の返礼品としての提供のみで試行的なものとなっておりますが、にんじんの生産量の確保や人気次第では全国展開に繋がるかもしれないので、これからカルビーにアプローチをしていこうと考えております。

【参加者まとめの言葉】まず障がい児保育、子育て支援についてまとめたいと思います。今後小中高一貫の障がいを持つ子どものための学校建設の計画があり、保護者やそこに通う子どものことを考えた立地を検討しているということと、市内保育所は障がいを持つ子どもの支援体制が整っているということでした。

次に学びの森をはじめとした市内の環境計画についてです。冬ソナロードのイチョウの木は現地確認をしていただけたということ、学びの森と市民公園のコンセプトの違いからそれぞれ異なる土地活用を行っているということ、橋の建設工事は岐阜県と愛知県が意見を合わせながら計画しているということがわかりました。

【市長まとめの言葉】各々自分の住んでいるまちがあるので、ぜひ一度自分が住んでいるまちを振り返っていただきたいです。そこから「もっとこういったまちになるんじゃないか」とか「自分たちに何ができるのか」など考えることに繋がり、これから行政にとって必要なみんなと一緒に進むまちづくりの一つの手立てになると思います。

今各務原市ではみんなで色々作りあげていく、オール各務原をモットーにしており、来年度以降は繋がりづくりをテーマとしています。これから自治体が生き残っていくためには皆さまの柔軟な発想力が重要となってくると思うので、これからも皆さまと一緒にがんばっていきたいと思います。